# 年 表(1915-1955)

	1915 大正4年	1920 大正9年	1925 昭和元年	1930 昭和5年	1935 昭和10年	1940 昭和15年	1945 昭和20年	1950 昭和25年	195 昭和30年
. 全般		* 日本鉄鋼協会創立(1915年2月6日)  * 東京市芝区南佐久間町に会館 建設(1917)  * 社団法人化、定款制定(1916)  * 会員数896名(1915)	* 震災により事務所移転(丸の内 永楽町工業倶楽部内鉱山懇話 会に同居後、有楽町三菱東7号 館)  * 維持会員制創設(1926)		* 寄贈資金(服部博士、香村博士、俵博士、利博士)	* 関西支部開設(1939年)  * 千代田区丸の内 三菱14号館に 事務所移転(1936-1962) 左写真参照:右端の入り口から 入り、3階、約40坪  * 監事設置(1936)、副会長設置 (1940)  * 会員数2,000名突破(1936)  * 寄贈資金(野田博士、日本鋼管 (株)、日本特殊鋼(株)、今泉博 士)	*「製銑製鋼用参考品展覧会」開催(1942)(3日間開催、入場者数2300名)  * 北海道支部開設(1943)  * 東北支部、東海支部開設(1944)  * 中国支部、朝鮮支部、満州支部、九州支部開設(1945)  * 会員数5,000名突破(1941)	7,1,1,2,2	ALI IL
2. 事業 講演会·研修会 育成事業		* 第1回通常総会(1916年3月25日)	* 第1回講演大会開催(1924年) 講演大要及び前刷を発行し希望 者に領布	* 万国工業会議のため講演大会を 開催せず(1929年)	* 講演大会年2回開催(春;東京、 秋;地方)(1931年、第6回大会 から)	*連合研究部会の開催(本会と他学協会団体(大日本窯業協会/日本耐火物協会、日本機械学会、日本学術振興会、日本鋳物協会)が連合して開催(1939年~)	* 講演大会を東京、関西、九州、 東北の各地方講演会として分離 実施(1944年第31回大会) * 講演大会を戦争のため中止 (1945年)	* 講演大会再開(1946年第32回大 会)	* 講演内容の前刷りとして、「鉄と 鋼」の特輯号として春秋2回発 行、全会員に配布(1953~)
学術誌等の刊行		*「鉄と鋼」第1号発刊(1915年3 月)	*「製鉄用語集」作成(1922)	* 鉄と銅の付録として鉄鋼関連の 統計「製鉄業参考資料」(商工省 鉱山局編纂)を発行 (1927~37)		*「製鉄用語集第2版」刊行(1936)	* 「鉄鋼要覧」出版(1934) * 戦時にて「鉄と鋼」発刊中止 (1945年)	*「鉄鋼要覧(第2版)」出版(1948)	* 英文会誌「Tetsu-to-Hagane Abstracts」第1号刊行(1953) *「鉄鋼要覧(第3版)」出版(1952) *「鉄鋼便覧」出版(1954)
研究調査、助成			*「研究部会」設置(製銑、製鋼、 鋼材、鋳物、鉄鋼科学の5部会) (1925)			* 研究部会内規改正(1938年) (「燃料経済研究部会」「経済部 会」設立)		* 商工省、日本鉄鋼会、鉄鋼協会 の共催による「鉄鋼技術研究連 絡会」(10部会)(1948~)	* 通産省重工業局、鉄鋼連盟、鉄 銅協会の共催による「鉄鋼技術 共同研究会」(6部会11分科会) に再編(1954~)
表彰		* 名誉会員の推薦(1922~)	* 製鉄功労賞の制定(1925)		* 「服部賞」の制定(1931) *「香村賞」の制定(1932) *「俵賞」の制定(1935)	*「渡辺三郎賞」の制定(1939)	*「日本鉄鋼協会事業功労賞」の 贈与(1945)		*「協会事業功労賞」の贈与 (1955)
その他			* 工業標準化事業開始(1921~) 商工省工業品規格統一調査委 員会の諮問により規格案を作成		* 鉄鋼規格の印刷発行(1931~ 1945) * 鉄鋼標準試料の領布(1935~) 八幡製鉄所製の炭素鋼6種から 開始				*「鉄鋼標準試料委員会」設置 (1954) * 鉄鋼規格の調査研究(1952~ 1964)
3. 鉄鋼産業		* 官営八幡製鉄所 厚板工場、軌 条工場稼働(1901)  * 川崎重工(葺合) 厚板工場稼働 (1918)  * マンネスマン式継目無鋼管の製 造開始(NKK)  * 大同電気製鋼所熱田工場でエ ルー式1.5tアーク炉が設置  * 3tエルー炉設置、13Cr鋼を製造 開始(呉工廠)  * フェロアロイ生産開始(電気製鋼所所)  * 高周波電気炉設置(官営八幡製 鉄所)  * 本田光太郎 KS磁石鋼を発明	創業  * 13Crステンレス鋼の圧延とデュコール鋼板の製造開始、ピアノ線の製造に成功(官営八幡製鉄** 官営八幡製鉄所 熱漬ぶりき生産開始(1923)		* 18-8ステンレス鋼板製造開始 (日本金属工業)  * 官営八幡製鐵所 ラカワナ型鋼矢板 生産開始(1931)  * 日本製鉄(株)設立(1934)  * 加藤与五郎、武井武 OP磁石 鋼を発明 * 三島徳七 MK磁石鋼を発明	火入れ	* 光工廠、製鋼部操業開始  * 豊田自動織機内に製鋼部門設置(愛知製鋼)	* 日本製鉄(株)解散、八幡製鉄 (株)、富士製鉄(株)、日鉄汽船 (株)、播磨耐火煉瓦(株)の4社 発足(1950) * 川崎製鉄(株)設立(1950) * 尼崎製鋼所で酸素製鋼(平炉) 実験 * 富士・アームコ、ストリップミル技 術援助契約認可	* 川鉄千葉製鉄所操業、700t高炉火入れ  * 住友金属で最初の鋼連続鋳造設備 * 住金、小倉製鋼(株)を合併(1953)  * 帯鋼ミルの完成、稼働(川鉄西宮、住金和歌山、NKK川崎) * 可逆式コールド・ストリップ・ミル完成(東洋鋼飯、淀川製鋼呉) * コールド・ストリップ・ミル稼働(富士広畑)(1954) * ホット・ストリップ・ミル完成、稼賃(日新製鋼呉、富士広畑)
J. 時代背景		* 第一次世界大戦(1914-1918)	* 関東大震災(1923)			* 日華事変勃発(1937) * 第二次世界大戦(1939-1945)	* 日本参戦(1941)		* 朝鮮戦争(1950-1953) * 神武景気(1954-1957)

# 3. 年 表(1955-1974)

	1955 昭和30年		1957 昭和32年	1958 昭和33年			1961 昭和36年	1962 昭和37年		196 <sub>4</sub> 昭和39年
1. 全般	* 創立40周年記念式典		* 八幡製鉄 渡辺義介資金受け入 れ(1000万円) * 石原米太郎資金受け入れ(1000 万円)					* 協会事業拡大強化策実施 専務理事制、部員制度の導入、 標準化事業の強化	* 資料委員会の設置	* 標準化委員会の設置 * 訪英使節団派遣
2. 事業 講演会·研修会 育成事業										* 小パネル討論会の開催
学術誌等の刊行	* 鉄と鋼 創立40周年記念特集号						*「Tetsu-to-Hagane Overseas」の 刊行(年4回)			* 特別報告書の刊行開始 * 訪英鉄鋼使節団報告書
研究調査、助成			* 協会賞創設		* 渡辺義介賞、同記念賞創設				* 通産省、鉄連、本会の3者共催に よる「鉄鋼技術共同研究会」を日 本鉄鋼協会主催の「共同研究会」 (12部会)に集約	* 試験高炉委員会の設置 * 国内炭活用製鉄用コークス製造 試験員会設置 * クリープ委員会設置
表彰										
その他										
3. 鉄鋼産業				* 純酸素転炉、平炉での酸素使用が拡大			* 川鉄、水島製鉄所設置			
	* 純酸素上吹き転炉の技術導入	* ゼンジミア圧延機の技術導入	* 鉱石の事前処理が推進され、粉 鉱の焼結に努力 * 純酸素転炉製鋼がスタート、日本 初のLD転炉2基操業開始(八幡)	* ホット、コールド・ストリップ・ミルが 相次いで稼働 * 緑材、条銅ミル、電縫管設備も新 鋭設備が完成 * 東海製鉄(株)設立 * 鉛快削鋼の製造技術導入	備が新規稼働	* 初のスラブ連鋳機稼働(八幡 光) * 転炉操業対応に発光分析迅速分 析法の導入	* 真空脱ガス設備、DHを導入(八 幡) * オープンコイル焼鈍技術を米国か ら導入		* 転炉鋼の生産量、平炉鋼を上回る る * 真空脱ガス設備、RH法の導入 (富士広畑) X60ラインパイプ生産開始	* コークス炉の大型化始まる * ターンシート生産開始
4. 時代背景	* 原水爆禁止日本協議会(原水協) 結成	* 日ソ国交回復共同宣言	* ソ連、世界初の人工衛星「スプートニク号」の打ち上げに成功	* 関門国道トンネル開通	* 皇太子成婚式	* 日米相互協力および安全保障条約(新安保条約)・協定, ワシント		* 東京都,世界初の1000万都市に		* 東海道新幹線開通
			* 鉄鋼労連, 第1波スト	* 東京タワー完工式	* ソ連の「ルナ2号」、初の月面着 陸に成功	ンで調印 * 欧州自由貿易連合(EFTA)発足		* ばい煙規制法制定		* 第18回オリンピック・東京大会
	1965 昭和40年		1967 昭和42年	1968 昭和43年			1971 昭和46年	1972 昭和47年		197 <sub>年</sub> 昭和49年
1. 全般	* 創立50周年記念式典、祝賀会 佐藤首相他		* 川崎製鉄西山記念資金2000万円 寄贈	* クライマックス・モリブデン社より 毎年50万円の寄贈、ヘンダーソ		* 八幡製鉄湯川記念資金として 3000万円寄贈	* 神戸製鋼所より浅田長平記念資 金として3000万円の寄贈	* 常務理事制新設	* 英国鉄鋼協会(ISI)からGold Medal授与	
	* 英国鉄鋼協会春秋大会に代表派 遣		* ILAFA(南米)、ASM(USA)大会 に代表派遣				* 北欧鉄鋼使節団派遣			
2. 事業 講演会·研修会 育成事業	* 第1回技術講座開催 鋼の脱ガス 法		* 第1回日本・ソ連製呼応物理化学 合同シンポジウム 訪ソ鉄鋼学術使節団派遣			* 第1回ジュニアパーティー開催			* 第4回真空冶金国際会議	* 第1回日独セミナー実施
学術誌等の刊行	* 鉄鋼協会50年史発行	* 「Transactions of The Iron and Steel of Japan」に名称変更、年6 回発行		* 技術講座を西山記念技術講座と して開催						
研究調査、助成	* 鉄鋼基礎共同研究会研究グルー ブ発足 * 共同研究会「原子力研究部会」廃 止		*「材料試験原子炉利用委員会」設置 * たたら製鉄法復元計画委員会設 置					* 原子力製鉄研究組合発足	* 鉄鋼科学技術史委員会設置	
表彰	* 俵賞を俵論文賞と改称							* 第1回浅田賞授与		
その他										
3. 鉄鋼産業	* ダスト処理用還元鉄ペレット設備 稼働 * 機械式攪拌による溶銑脱硫法 (KR法)の実用化(富士広畑)	* 初の湾曲型ブルーム、ビレッと連 鋳機稼働(国光製鋼大阪) * 合金化溶融亜鉛めっき鋼板の生 産開始	* 富士製鉄(株)、東海製鉄(株)を 合併、名古屋製鉄所となる * 転炉工場初のスラブ連鋳機稼働 (NKK) * 2コート2ベーク塗装技術の適用 開始	* 八幡製鉄(株)君津製鉄所、第1 高炉火入れ * VOD導入、LD-VAC法による ステンレス鋼の製造開始(日新周 * 自動車用GI鋼板の生産開始	* 転炉出鋼能力73百万七/年と拡大	* 新日本製鐵(株)設立  * (株)神戸製鋼所加古川製鉄所第 1高炉火入れ  * 耐サワーガス用油井管の開発が 活発化	* 住友金属工業(株)鹿島製鉄所、 第1高炉火入れ * 世界初の完全連続式冷延ミルが 実現(NKK福山) * 東南アジア鉄鋼協会設立	1高炉火入れ * 塊成鉱使用比率が80%に達する	* 国内粗鋼生産量、119百万tと1億 tを突破 * 耐サワー用ラインパイプを開発、 実用化	* 全竪型焼鈍炉方式のCGL稼働
4. 時代背景	* 朝永振一郎にノーベル物理学賞 授与と発表 * 住金事件	* 住民登録による総人口1億人突破	* 公害対策基本法制定	* 紛争中の東大・東教大,44年度 の入試中止を決定。 * 大気汚染防止法制定	* 八幡製鉄·富士製鉄, 合併に調印	* 日本万国博覧会, 大阪千里で開催	* 対ドル・レート、変動相場制へ(ニ クソン・ショック) * 東京・銀座にマクドナルドの一号 店が開店	* 第11回冬季オリンピック, 札幌で 開幕 * 田中首相、大平外相と中国を訪問		* 東京・江東区にセブン・イレブン 一号店開店

## 3. 年 表(1975-1994)

	1975 昭和50年		1977 昭和52年					1982 昭和57年		1984 昭和59年
1. 全般	* 創立60周年記念式典(4月3日)			* 鉄鋼技術情報センター設立(4月)	* 林達夫記念資金設定(12月)	の会費を免除決定(1981年1月から)	* 白石元治郎記念資金の設定(4 月) * 山岡武氏卒寿記念資金設定(11 月)	* 日向方斎学術振興資金受入(2 月)		* 国際交流事業検討小委員会設置(10月)
2. 事業 講演会·研修会 育成事業	* 第1回鉄鋼工学セミナー開始			* ポスターセッション新設		* 第100回講演大会(10月 九州大学)		* 第1-2回白石記念講座	* 第1回日向方斎学術振興交付金 決定	
学術誌等の刊行										
研究調査、助成			* 特定基礎研究会設置(4月)  * 日本圧力容器研究会議(JPVRC) 設立	* 第1回湯川コロキー(4月) * 高級ラインパイプ共同研究委員 会設置(5月)		* 高温強度研究委員会設置(2月)		* 構造材料の寿命予測にともなう 技術委員会(10月)	* 耐火物部会 VDEh耐火物部会と 交流開始 * 熱延プロセス冶金研究委員会設 置(4月)	* 材料·計測評価委員会(9月)  * 低炭素鋼板研究委員会設置(3月)
表彰						* 第1回三島賞授与(10月)	* 第1回林賞授与(4月)	* 第1回山岡賞授与		
その他			* 日本鉄鋼協会規格制定		* ISO/TC17幹事国事務局受入決					
3. 鉄鋼産業		* 大同製鋼(株)、日本特殊鋼 (株)、特殊製鋼(株)の3社が合 併、大同特殊鋼(株)発足 * 日本鋼管(株)扇島製鉄所1号高 炉火入れ	* 大阪製鋼(株)と大谷重工業(株) 合併、合同製鉄(株)設立 * 水平連錬技術の導入始まる	* 成型コークス製造プロセスの国家プロジェクト始まる * 我が国、炉内容積4000 m3以上の大型高炉13基となる	* 世界初の厚板オンライン焼入装 置稼働(住金鹿島)	* オールコークス操業への指向 * 溶銑脱燐法の探用、各社で始まる		* 溶銑予備処理設備、各社で本格的に稼働	* 新日鉄(株)定款を変更、新素材 等総合素材メーカーへの脱皮図 る * 世界初の転炉方式溶銑予備処 理プロセス(H炉)の開発(神鋼神 戸)	* 日本鋼管(株)米国ナショナル・スチール社に資本参加する協定 に調印
		* CDQ(コークス乾式消大設備)稼働。(新日鉄戸畑, NKK京浜)	<ul><li>* 我が国最後の平炉の火消える。 (東京製鉄岡山)</li><li>* 純酸素底吹き転炉導入(川鉄千葉)</li></ul>	* 電気炉製鋼にカーボンインジェク ション法を導入		* 複合転炉の操業が各社で始まる * 製鋼直結サイジングミルの導入 (新日鐵大分)			* 厚板のTMCP設備の導入が進み 造船用高張力鋼板、海洋構造物 用低温用鋼板、ラインパイプ用 鋼板などの製造技術開発が進展	
4. 時代背景	* ベトナム戦争終結	* ロッキード問題		* 日中平和友好条約調印 * 成田国際空港開港			* 神戸博覧会「ポートピア81」		* ロッキード裁判で田中角栄被告 に実刑判決	
1	1985 昭和60年	1986 昭和61年	1987 昭和62年	1988 昭和63年	1989 平成元年			1992 平成4年		1994 平成6年
1. 全般	* 創立70周年記念式典(3月31日)  * 国際交流委員会設置(7月)	* 臨時協会事業検討委員会 * 図書出版委員会の設置	* Advisory Boardの新設  * 臨時協会事業検討委員会の答 申  * 澤村宏記念資金の寄付受入	* 鉄鋼技術情報センターのあり方 を検討する企画委員会設置	* 企画委員会会員小委員会報告 書	* 協会事務職 室制に組織変更  * 協会 諸規程類の全面改訂  * 外島記念資金を新設	* 鉄鋼研究振興助成金選考委員 会設置 * 協会事業特別検討委員会設置	* 長期展望小委員会報告書を受け て、企画委員会の下に長期展望 検討小委員会を設置	* 長期展望検討小委員会から抜本 的改革案を提案 * 金属・鉄鋼協議会を設置	* リストラ80計画を承認
2. 事業 講演会·研修会 育成事業							* 育成委員会設置			
学術誌等の刊行	* 鉄と鋼記念特集号「鉄鋼技術の 進歩」発行(3月) * Trans ISIJ配念特集号英文版を 発行(7~8月)			* 講演論文集 材料とプロセス発 行	* ISIJ Internationall二誌名改称					
研究調査、助成	* 研究委員会内に産学連携促進 検討WG設置 * 新素材試験評価調査委員会(7	* 構造用鋼材の機械的性質に関するつ調査研究委員会 * チタン材料研究会発足				* 基礎研究会設置(独自活動の7研 究会の統合)	* 鉄鋼研究振興資金設置 (鉄鋼研究振興助成開始)	* 境界領域委員会設置		
表彰				* 澤村記念資金にてTrans ISIJの 論文賞を新設		* ISIJ International 第1回澤村論 文賞授与	* 鉄と鋼 論文欄、会報欄に分割	* 里見賞の第1回授与	* 日本鉄鋼協会·日本金属学会奨 学賞	
その他							* 分科会の委員制度 二重性採用			
3. 鉄鋼産業	* ツインシェル型電気炉の操業始まる * 連結比率01/02と十分列達	* 主要高炉社で鉄鋼不況による初 の一時休業実施 * 鍋方式予備処理法の実用化 (NKK福山・京浜、新日鐵大分)	併、トーア・スチール(株)発足	* 日本銅管(株)、NKKに呼称統一	高炉の火消える		* 住友金属工業(株)、米国LTVへ の資本参加発表	* 電磁カ利用の連鋳鋳型内溶鋼 流動制御技術の開発進む	* 溶融還元製鉄法DIOSの500t/D パイロットプラント完成。10月より 試験操業開始。	* 高炉PCI全国平均で100kg/tlに到達 * 東京制鉄(株) 細年标に本出
	* 達鋳比率91,4%と大台到達 * 表面処理鋼板を中心とする日米 の合弁事業始る	* 世界初のサイジングブレス稼動開始(川鉄水島)  * 残留オーステナイトを含有する TRIP型高張力薄鋼板の製造技 術の開発	* 熱延仕上ミル入口に誘導加熱による粗バー端部加熱装置(エッジヒーター)が普及		* タンディッシュの熱間連続操業の 開始(神鋼加古川)		* 厚板圧延機へのペアクロスミル の導入(新日鐵君津) * 1180~1570 MPa級超高張力薄 鋼板の製造技術の開発、実用化			* 東京製鉄(株)、鋼矢板に進出
4. 時代背景	* つくば科学万博	* 米国LTV社、事実上倒産	* 国鉄分割・民営化 * 米国カイザー・スチール社、事実 上倒産		* 東西「ベルリンの壁」撤廃	* 東西ドイツ統合	* 湾岸戦争			* 関空開港
			* ニューヨーク株式市場大暴落(ブ ラックマンデー)	* リクルート事件						

### 3. 年 表(1995-2014)

	1995 平成7年	1996 平成8年	1997 平成9年	1998 平成10年	1999 平成11年		2001 平成13年	2002 平成14年	2003 平成15年	2004 平成16年
1. 全般	* 創立80周年記念事業		* 新中期計画(H10~12年度)を策定	干成10平	十八十二	* 維持会員会社の分社化に伴い、各		十八十	十八八八	* 日本金属学会との統合検討の開
	. 周.至66周十届80年末	開始	· 初中初計画(III0 12年及/E来足			規程を整備	区大手町)から新倉ビル(同区神田司町)に移転			始
	*「リストラ81」による新体制発足 * 準会員制度の新設置									
	*「学会部門」、「生産技術部門」を新									
2. 事業	D.									
講演会・研修会	* 創立80周年記念「鉄-21世紀への				* 日本技術者教育認定機構		* 異業種交流セミナーを「材料と設計」「材料と環境」および「材料と機	* JABEE(日本技術者教育認定機		
育成事業					(JABEE)正式発足 協会内に技術者教育認定制度等 検討特別委員会を設置		計」「材料と環境」のより「材料と機能」について開催	構)による教育プログラム認定制 度の「材料および材料関連分野」 の幹事学会となる		
					快的行列支具云で配旦			の計事士芸となる		
	*「鉄と鋼」創立80周年特集号の発	*「鉄と鋼」と会報「ふぇらむ」を分離				*「鉄鋼便覧第3版」の復刻、その追				*「鉄と鋼」を創刊号から国立情報学
学術誌等の刊行	行	条行開始 				補および新2巻(計測、環境)の事業方針を策定、8つの巻分科会を				研究所(NII)の電子図書館サービ スに搭載
	* 日本鉄鋼協会80年史の発行					発足し執筆に着手				
	*「叢書 鉄鋼技術の流れ」の刊行									
	*「専門分野別部会」新設(5部会)	* 科技庁「新世紀構造材料開発」、	* 専門分野別部会へ新たに「評価・		*「鉄鋼科学技術戦略」作成	*「専門分野別部会」を「学術部会」	* 環境関連分野での課題提言と研		*「鉄鋼科学技術戦略ロードマップ」	* 「環境・エネルギー工学部会」発足
研究調査、助成	;	通産省「スーパーメタル」への支援 体制の準備を開始	分析・解析部会」を発足			へ改称	究開発促進を目的に、産学官より なる「フォーラム」設置		作成(「ふぇらむ」Vol.8 No.7~12に 掲載)	
	* 共同研究会を「分野別部会」の総 称へ改名	* 次世代鉄鋼奨学助成(~2003)	* "技術開発課題"の募集、戦略分 野の設定、テーマ検討グループ設	*「鉄鋼研究振興助成」拡大		* 「助成委員会」を「研究委員会」へ 改称	*「鉄鋼研究戦略会議」設置、平成 11年策定の「鉄鋼科学技術戦略」		* 中小形部会と線材部会を統合、 「棒線圧延部会」発足	
			置				を見直し			
表彰	;									
その他	1									
3. 鉄鋼産業	* 阪神・淡路大震災の被害により、 高炉、特殊鋼各社に生産肩代わり	* 世界初の廃プラスチック高炉原料 化設備を完成(NKK京浜)	* 年産50万tの中径継目無鋼管新ミルを完成(住金和歌山)	でPCI操業を開始し、国内の全高	* 世界初の活性炭移動層式焼結主 排ガス処理設備稼動(新日鐡名古	* 大型機としては世界初の油圧式高 速4面鍛造機導入(日立金属安来)	* 製鋼工程でのフッ素レス化ニーズ 高まる	国内稼動基数は31基から29基へ	* 厚板新型矯正機(知能圧延機)の 導入(新日鐵大分)	* 世界初の厚板オンライン熱処理装 置導入(JFE福山)
	を要請(神戸製鋼) * 宇都宮工場操業開始(東京製鉄)	* 世界初の熱延エンドレス圧延開始	* 3高炉でPCI設備が稼動し、PCI稼	炉でPCIが稼動 * MURC法の高速化による大量生産	屋) * 世界最高速吹錬時間の最新鋭製	* 世界初の偏芯異径片駆動圧延技		変化	* NKKと川鉄が合併し、JFEスチー	
		(川鉄千葉)	動高炉が28基に増加(住金鹿島)	開始(新日鐵大分)	鋼工場新設(住金和歌山)	術を適用した超微細粒熱延鋼板 (中山製鋼所)			ルが発足	
	nett sket Letw	* 東京製鉄(株)、表面処理鋼板、冷延鋼板に進出、岡山工場建設			* トーア・スチール(株)解散、エヌ ケーケー条鋼に承継		++++			
4. 時代背景	* 阪神·淡路大震災	* 民主党結成					* 中央省庁再編			
	2005	2006	2007	2008	2009		2011	2012	2013	2014
1. 全般	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
	* 創立90周年記念事業			* 特別社団法人「社団法人 日本鉄 鋼協会」へ移行(H20年12月1日)	* 企画運営WG、生産技術WG設置	* 一般社団法人を目指すことを決定 (平成22年9月理事会)	* 日本熱処理技術協会の事務所同 居	* 特例社団法人から「一般社団法人 日本鉄鋼協会」に移行(8月1日)		
						* 日本金属学会東京事務所の同居		* 本会事務所を新倉ビルから鉄鋼会 館5階(中央区日本橋茅場町)に		
								移転		
2. 事業										
講演会∙研修会		→ 全届廿料 玄学协会連维协議会た	*「学生独細わこ十二」問心	* ロオ全尿学会との護常士会にも	* 第200回 西山記会は街港座/特			* 大协会が提案」た科学は毎年間		
育成事業	:	* 金属材料系学協会連携協議会を 発足させ、日本金属学会との講演 大会における相互聴識の試行、合	*「学生鉄鋼セミナー」開始	* 日本金属学会との講演大会にお ける相互聴講を本格実施	* 第200回 西山記念技術講座(特別企画講演会実施)			* 本協会が提案した科学技術振興 機構の産学共創基礎基盤技術開 発制度「ヘテロ構造制御金属材料	* 経済産業省等による大学特別講 義を15大学で実施	
			*「学生鉄鋼セミナー」開始							
		発足させ、日本金属学会との講演 大会における相互聴講の試行、合 同の男女共同参画委員会設置な	*「学生鉄鋼セミナー」開始		別企画講演会実施) * 第2回鉄鋼科学国際シンポジウ			機構の産学共創基礎基盤技術開発制度「ヘテロ構造制御金属材料プロジェクト」で秋季講演大会時に		
		発足させ、日本金属学会との講演 大会における相互聴講の試行、合 同の男女共同参画委員会設置な	*「学生鉄鋼セミナー」開始		別企画講演会実施)			機構の産学共創基礎基盤技術開発制度「ヘテロ構造制御金属材料プロジェクト」で秋季講演大会時に科学技術振興機構と共催でシンポ		
	*「創立90周年 日本鉄鋼協会史」	発足させ、日本金属学会との講演 大会における相互聴講の試行、合 同の男女共同参画委員会設置な	* J-STAGEにおいて「ISIJ		別企画講演会実施) * 第2回鉄鋼科学国際シンポジウ	* J-STAGEにおいて「ISIJ Int.」をフ		機構の産学共創基礎基盤技術開発制度「ペテロ構造制御金属材料プロジェクト」で秋季講演大会時に科学技術振興機構と共催でシンポジウムを開催  *「鉄と銅」を新J-STAGE3のシステ		*「鉄と銅」第100巻記念特集号
学術誌等の刊行	*「創立90周年 日本鉄鋼協会史」	発足させ、日本金属学会との講演 大会における相互聴講の試行、合 同の男女共同参画委員会設置な	* J-STAGEにおいて「ISIJ International」の公開を本格化	ける相互聴講を本格実施	別企画講演会実施) * 第2回鉄鋼科学国際シンポジウ	* J-STAGEにおいて「ISIJ Int.」をフ リーアクセス化	* 電子投稿・審査システムを新J- STAGE3の投稿・審査システムへ 変更	機構の産学共創基礎基盤技術開発制度「ヘテロ構造制御金属材料プロジェクト」で秋季講演大会時に科学技術振興機構と共催でシンポジウムを開催	義を15大学で実施	
学術誌等の刊行	*「創立90周年 日本鉄鋼協会史」	発足させ、日本金属学会との講演 大会における相互聴講の試行、合 同の男女共同参画委員会設置な	* J-STAGEにおいて「ISIJ International」の公開を本格化 * 鉄銅関連の教科書などの発行を 支援する「鉄銅関連図書出版支援	ける相互聴講を本格実施	別企画講演会実施) * 第2回鉄鋼科学国際シンポジウ		STAGE3の投稿・審査システムへ	機構の産学共創基礎基盤技術開発制度「ペテロ構造制御金属材料プロジェクト」で秋季講演大会時に科学技術振興機構と共催でシンポジウムを開催  *「鉄と銅」を新J-STAGE3のシステ	義を15大学で実施	* 「鉄と鋼」第100巻記念特集号 * 「第5版鉄鋼便覧」を発刊
学術誌等の刊行	*「創立90周年 日本鉄鋼協会史」	発足させ、日本金属学会との講演 大会における相互聴講の試行、合 同の男女共同参画委員会設置な	* J-STAGEにおいて「ISIJ International」の公開を本格化 * 鉄銅関連の教科書などの発行を	ける相互聴講を本格実施	別企画講演会実施) * 第2回鉄鋼科学国際シンポジウ		STAGE3の投稿・審査システムへ	機構の産学共創基礎基盤技術開発制度「ペテロ構造制御金属材料プロジェクト」で秋季講演大会時に科学技術振興機構と共催でシンポジウムを開催  *「鉄と銅」を新J-STAGE3のシステ	義を15大学で実施	
	*「創立90周年 日本鉄鋼協会史」 発行	発足させ、日本金属学会との講演 大会における相互聴講の試行、合 同の男女共同参画委員会設置な どの具体的な連携を推進 *「産発プロジェクト展開鉄鋼研究」	* J-STAGEにおいて「ISIJ International」の公開を本格化 * 鉄銅関連の教科書などの発行を 支援する「鉄銅関連図書出版支援	ける相互聴講を本格実施	別企画講演会実施) * 第2回鉄鋼科学国際シンポジウ	リーアクセス化 * 「社会鉄鋼工学部会」と「環境エネ	STAGE3の投稿・審査システムへ	機構の産学共創基礎基盤技術開発制度「ペテロ構造制御金属材料プロジェクト」で秋季講演大会時に科学技術振興機構と共催でシンポジウムを開催  *「鉄と銅」を新J-STAGE3のシステ	<ul><li>義を15大学で実施</li><li>* 鉄鋼技術ジャーナルサイトの開設</li><li>* 「鉄鋼関連助成事業連絡会」設立</li></ul>	
学術誌等の刊行 研究調査、助成	*「創立90周年 日本鉄鋼協会史」 発行	発足させ、日本金属学会との講演 大会における相互聴講の試行、合 同の男女共同参画委員会設置な どの具体的な連携を推進	* J-STAGEにおいて「ISIJ International」の公開を本格化 * 鉄銅関連の教科書などの発行を 支援する「鉄銅関連図書出版支援 事業 I開始	ける相互聴講を本格実施	別企画講演会実施) * 第2回鉄鋼科学国際シンポジウ	リーアクセス化  * 「社会鉄鋼工学部会」と「環境エネルギー工学部会」を統合し、「環境・エネルギー・社会工学部会」を	STAGE3の投稿・審査システムへ	機構の産学共創基礎基盤技術開発制度「ペテロ構造制御金属材料プロジェクト」で秋季講演大会時に科学技術振興機構と共催でシンポジウムを開催  *「鉄と銅」を新J-STAGE3のシステ	表を15大学で実施  * 鉄鋼技術ジャーナルサイトの開設  * 「鉄鋼関連助成事業連絡会」設立 (日本鉄鋼連盟、鉄鋼環境基金、 銀鋼スラグ協会、日本鋼構造協	
	*「創立90周年 日本鉄鋼協会史」 発行	発足させ、日本金属学会との講演 大会における相互聴講の試行、合 同の男女共同参画委員会設置な どの具体的な連携を推進 *「産発プロジェクト展開鉄鋼研究」	* J-STAGEにおいて「ISIJ International」の公開を本格化 * 鉄銅関連の教科書などの発行を 支援する「鉄銅関連図書出版支援 事業 I開始	ける相互聴講を本格実施	別企画講演会実施) * 第2回鉄鋼科学国際シンポジウ	リーアクセス化  * 「社会鉄鋼工学部会」と「環境エネルギー工学部会」を統合し、「環	STAGE3の投稿・審査システムへ	機構の産学共創基礎基盤技術開発制度「ペテロ構造制御金属材料プロジェクト」で秋季講演大会時に科学技術振興機構と共催でシンポジウムを開催  *「鉄と銅」を新J-STAGE3のシステ	<ul><li>義を15大学で実施</li><li>* 鉄鋼技術ジャーナルサイトの開設</li><li>* 「鉄鋼関連助成事業連絡会」設立 (日本鉄鋼連盟、鉄鋼環境基金、</li></ul>	
研究調査、助成	*「創立90周年 日本鉄鋼協会史」 発行	発足させ、日本金属学会との講演 大会における相互聴講の試行、合 同の男女共同参画委員会設置な どの具体的な連携を推進 *「産発プロジェクト展開鉄鋼研究」	* J-STAGEにおいて「ISIJ International」の公開を本格化 * 鉄銅関連の教科書などの発行を 支援する「鉄銅関連図書出版支援 事業 I開始	ける相互聴講を本格実施	別企画講演会実施) * 第2回鉄鋼科学国際シンポジウ	リーアクセス化  * 「社会鉄鋼工学部会」と「環境エネルギー工学部会」を統合し、「環境・エネルギー・社会工学部会」を設置 * 「鉄鋼技術連絡会」設置(鉄鋼6社	STAGE3の投稿・審査システムへ	機構の産学共創基礎基盤技術開発制度「ペテロ構造制御金属材料プロジェクト」で秋季講演大会時に科学技術振興機構と共催でシンポジウムを開催  *「鉄と銅」を新J-STAGE3のシステ	表を15大学で実施  * 鉄鋼技術ジャーナルサイトの開設  * 「鉄鋼関連助成事業連絡会」設立 (日本鉄鋼連盟、鉄鋼環境基金、 銀鋼スラグ協会、日本鋼構造協	
研究調査、助成表彰	*「創立90周年 日本鉄鋼協会史」 発行	発足させ、日本金属学会との講演 大会における相互聴講の試行、合 同の男女共同参画委員会設置な どの具体的な連携を推進 *「産発プロジェクト展開鉄鋼研究」	* J-STAGEにおいて「ISIJ International」の公開を本格化 * 鉄銅関連の教科書などの発行を 支援する「鉄銅関連図書出版支援 事業 I開始	ける相互聴講を本格実施	別企画講演会実施) * 第2回鉄鋼科学国際シンポジウ	リーアクセス化  * 「社会鉄鋼工学部会」と「環境エネルギー工学部会」を統合し、「環境・エネルギー・社会工学部会」を設置 * 「鉄鋼技術連絡会」設置(鉄鋼6社	STAGE3の投稿・審査システムへ	機構の産学共創基礎基盤技術開発制度「ペテロ構造制御金属材料プロジェクト」で秋季講演大会時に科学技術振興機構と共催でシンポジウムを開催  *「鉄と銅」を新J-STAGE3のシステ	表を15大学で実施  * 鉄鋼技術ジャーナルサイトの開設  * 「鉄鋼関連助成事業連絡会」設立 (日本鉄鋼連盟、鉄鋼環境基金、 銀鋼スラグ協会、日本鋼構造協	
研究調査、助成	*「創立90周年 日本鉄鋼協会史」 発行	発足させ、日本金属学会との講演 大会における相互聴講の試行、合 同の男女共同参画委員会設置な どの具体的な連携を推進 *「産発プロジェクト展開鉄鋼研究」	* J-STAGEにおいて「ISIJ International」の公開を本格化 * 鉄銅関連の教科書などの発行を 支援する「鉄銅関連図書出版支援 事業 I開始	ける相互聴講を本格実施	別企画講演会実施) * 第2回鉄鋼科学国際シンポジウ	リーアクセス化  * 「社会鉄鋼工学部会」と「環境エネルギー工学部会」を統合し、「環境・エネルギー・社会工学部会」を設置 (鉄鋼6社と(社)日本鉄鋼連盟、(財)金属系	STAGE3の投稿・審査システムへ 変更	機構の産学共創基礎基盤技術開発制度「ヘテロ構造制金属材料プロジェクト」で秋季講演大会時に科学技術振興機構と共催でシンポッウムを開催  *「鉄と銅」を新J-STAGE3のシステムで運用開始	<ul> <li>* 鉄鋼技術ジャーナルサイトの開設</li> <li>* 鉄鋼技術ジャーナルサイトの開設</li> <li>* 「鉄鋼関連助成事業連絡会」設立(日本鉄鋼連盟、鉄鋼環境基金、鐵鋼スラグ協会、日本鋼構造協会、鉄鋼協会)</li> </ul>	
研究調査、助成表彰	*「創立90周年 日本鉄鋼協会史」 発行	発足させ、日本金属学会との講演 大会における相互聴講の試行、合 同の男女共同参画委員会設置な どの具体的な連携を推進 *「産発プロジェクト展開鉄鋼研究」	* J-STAGEにおいて「ISIJ International」の公開を本格化 * 鉄鋼関連の教科書などの発行を 支援する「鉄鋼関連図書出版支援 事業・開始 * 学術部会に「若手フォーラム」を創 設	ける相互聴講を本格実施  * 「ふぇらむ」と「鉄と銅」の合本化  * 次世代コークス製造技術 (SCOPEZI)の実機第1号プラント	別企画講演会実施) * 第2回鉄鋼科学国際シンポジウム、鉄鋼環境国際シンポジウムを	リーアクセス化  * 「社会鉄鋼工学部会」と「環境エネルギー工学部会」を統合し、「環境・エネルギー・社会工学部会」を設置 (鉄鋼6社と(社)日本鉄鋼連盟、(財)金属系	STAGE3の投稿・審査システムへ 変更	機構の産学共創基礎基盤技術開発制度「ペテロ構造制御金属材料プロジェクト」で秋季講演大会時に科学技術振興機構と共催でシンポジウムを開催  *「鉄と銅」を新J-STAGE3のシステ	* 鉄鋼技術ジャーナルサイトの開設  * 「鉄鋼関連助成事業連絡会」設立 (日本鉄鋼連盟、鉄鋼環境基金、 鐵鋼スラグ協会、日本鋼構造協 会、鉄鋼協会)  * 次世代コークス製造技術 (SCOPE21)の実機第2号プラント	
研究調査、助成 表彰 その他	*「創立90周年 日本鉄鋼協会史」 発行 発行 ・ 無和鉄源一貫溶解プロセスの実機	発足させ、日本金属学会との講演 大会における相互聴講の試行、合 同の男女共同参画委員会設置な どの具体的な連携を推進 *「産発プロジェクト展開鉄鋼研究」 設置 *厚板用オンラインロールグライン	* J-STAGEにおいて「ISIJ International」の公開を本格化 * 鉄鋼関連の教科書などの発行を 支援する「鉄鋼関連図書出版支援 事業・I開始 * 学術部会に「若手フォーラム」を創 設	ける相互聴講を本格実施  * 「ふえらむ」と「鉄と銅」の合本化  * 次世代コークス製造技術 (SCOPE21)の実機第1号ブラント 竣工(新日銭大分)  * 環境調和型革新的製鉄製鉄プロ	<ul> <li>第2回鉄鋼科学国際シンポジウム、鉄鋼環境国際シンポジウムを</li> <li>*環境調和型スラグ処理設備の立ち上げ(新日鐵名古屋)</li> <li>*世界初の厚板圧延・水冷同期化設</li> </ul>	リーアクセス化  * 「社会鉄鋼工学部会」と「環境エネルギー工学部会」を統合し、「環境・エネルギー・社会工学部会」を設置に鉄鋼6社と(社)日本鉄鋼連盟、(財)金属系  * 合金鉄溶解炉の導入による原料自由度の向上(新日鐵八幡)	STAGE3の投稿・審査システムへ変更  * 厚肉高強度鋼管用ペンディングブ	機構の産学共創基礎基盤技術開発制度「ヘテロ構造制御金属材料プロジェクト」で秋季講演大会時に科学技術振興機構と共催でシンポジウムを開催  *「鉄と銅」を新J-STAGE3のシステムで運用開始  *世界最大70MN厚板冷間レヘラー導入(新日鐵住金鹿島)  *新日鐵と住金が合併し、新日鐵住	* 鉄鋼技術ジャーナルサイトの開設  * 「鉄鋼関連助成事業連絡会」設立 (日本鉄鋼連盟、鉄鋼環境基金、 鐵鋼スラブ協会、日本鋼構造協会、鉄鋼協会)  * 次世代コークス製造技術 (SCOPE21)の実機第2号ブラント 竣工(新日銭住金名古屋)  * 「低炭素社会実行計画」策定(鉄	
研究調査、助成 表彰 その他	*「創立90周年 日本鉄鋼協会史」 発行 発行 * 細粒鉄源一貫溶解プロセスの実機 化(新日鐵広畑)	発足させ、日本金属学会との講演 大会における相互聴講の試行、合 同の男女共同参画委員会設置な どの具体的な連携を推進 *「産発プロジェクト展開鉄鋼研究」 設置 *厚板用オンラインロールグライン	* J-STAGEにおいて「ISIJ International」の公開を本格化 * 鉄鋼関連の教科書などの発行を 支援する「鉄鋼関連図書出版支援 事業・開始 * 学術部会に「若手フォーラム」を創 設	ける相互聴講を本格実施  * 「ふぇらむ」と[鉄と銅」の合本化  * 次世代コークス製造技術 (SCOPE21)の実機第1号ブラント 竣工(新日鐵大分)	別企画講演会実施) * 第2回鉄鋼科学国際シンポジウム、鉄鋼環境国際シンポジウムを 、鉄鋼環境国際シンポジウムを 上げ(新日鐵名古屋)	リーアクセス化  * 「社会鉄鋼工学部会」と「環境エネルギー工学部会」を統合し、「環境・エネルギー・社会工学部会」を設置に鉄鋼6社と(社)日本鉄鋼連盟、(財)金属系  * 合金鉄溶解炉の導入による原料自由度の向上(新日鐵八幡)	STAGE3の投稿・審査システムへ変更  * 厚肉高強度鋼管用ペンディングブ	機構の産学共創基礎基盤技術開発制度「ヘテロ構造制金属材料プロジェクト」で秋季講演大会時に科学技術振興機構と共催でシンポジウムを開催  *「鉄と銅」を新J-STAGE3のシステムで運用開始  *世界最大70MN厚板冷間レペラー導入(新日鐵住金鹿島)	* 鉄鋼技術ジャーナルサイトの開設  * 「鉄鋼関連助成事業連絡会」設立 (日本鉄鋼連盟、鉄鋼環境基金、 鐵鋼スラグ協会、日本鋼構造協会、鉄鋼協会)  * 次世代コークス製造技術 (SCOPE21)の実機第2号ブラント 竣工(新日銀住金名古屋)	
研究調査、助成 表彰 その他	*「創立90周年 日本鉄鋼協会史」 発行 発行 * 細粒鉄源一貫溶解プロセスの実機 化(新日鐵広畑)	発足させ、日本金属学会との講演 大会における相互聴講の試行、合 同の男女共同参画委員会設置な どの具体的な連携を推進 *「産発プロジェクト展開鉄鋼研究」 設置 *厚板用オンラインロールグライン	* J-STAGEにおいて「ISIJ International」の公開を本格化 * 鉄鋼関連の教科書などの発行を 支援する「鉄鋼関連図書出版支援 事業・開始 * 学術部会に「若手フォーラム」を創 設	* 次世代コークス製造技術 (SCOPE21)の実機第1号プラント 竣工(新日鐵大分) * 環境調和型革新的製銑製鉄プロ セス技術開発(COURSESO)フェー	<ul> <li>第2回鉄鋼科学国際シンポジウム、鉄鋼環境国際シンポジウムを</li> <li>*環境調和型スラグ処理設備の立ち上げ(新日鐵名古屋)</li> <li>*世界初の厚板圧延・水冷同期化設</li> </ul>	リーアクセス化  * 「社会鉄鋼工学部会」と「環境エネルギー工学部会」を統合し、「環境・エネルギー・社会工学部会」を 設置 (鉄鋼6社と(社)日本鉄鋼連盟、(財)金属系  * 合金鉄溶解炉の導入による原料自由度の向上(新日鐵八幡)	STAGE3の投稿・審査システムへ変更  * 厚肉高強度鋼管用ペンディングブ	機構の産学共創基礎基盤技術開発制度「ヘテロ構造制御金属材料プロジェクト」で秋季講演大会時に科学技術振興機構と共催でシンポジウムを開催  *「鉄と銅」を新J-STAGE3のシステムで運用開始  *世界最大70MN厚板冷間レヘラー導入(新日鐵住金鹿島)  *新日鐵と住金が合併し、新日鐵住	* 鉄鋼技術ジャーナルサイトの開設  * 「鉄鋼関連助成事業連絡会」設立 (日本鉄鋼連盟、鉄鋼環境基金、 鐵鋼スラブ協会、日本鋼構造協会、鉄鋼協会)  * 次世代コークス製造技術 (SCOPE21)の実機第2号ブラント 竣工(新日鐵住金名古屋)  * 「低炭素社会実行計画」策定(鉄連)	
研究調査、助成 表彰 その他 3. 鉄鋼産業	*「創立90周年 日本鉄鋼協会史」 発行 発行 * 細粒鉄源一貫溶解プロセスの実機 化(新日鐵広畑)	発足させ、日本金属学会との講演 大会における相互聴講の試行、合 同の男女共同参画委員会設置な どの具体的な連携を推進 *「産発プロジェクト展開鉄鋼研究」 設置 *厚板用オンラインロールグライン	* J-STAGEにおいて「ISIJ International」の公開を本格化 * 鉄鋼関連の教科書などの発行を 支援する「鉄鋼関連図書出版支援 事業・開始 * 学術部会に「若手フォーラム」を創 設	ける相互聴講を本格実施  * 次世代コークス製造技術 (SCOPE21)の実機第1号プラント 竣工、新口銭大分)  * 環境調和型革新的製銑製鉄プロ セス技術開発(COURSE50)フェー ズ1開始	<ul> <li>第2回鉄鋼科学国際シンポジウム、鉄鋼環境国際シンポジウムを</li> <li>*環境調和型スラグ処理設備の立ち上げ(新日鐵名古屋)</li> <li>*世界初の厚板圧延・水冷同期化設</li> </ul>	リーアクセス化  * 「社会鉄鋼工学部会」と「環境エネルギー工学部会」を統合し、「環境・エネルギー・社会工学部会」を 設置 (鉄鋼6社と(社)日本鉄鋼連盟、(財)金属系  * 合金鉄溶解炉の導入による原料自由度の向上(新日鐵八幡)	* 厚肉高強度鋼管用ベンディングブレス導入(JFE福山)	機構の産学共創基礎基盤技術開発制度「ヘテロ構造制御金属材料プロジェクト」で秋季講演大会時に科学技術振興機構と共催でシンポジウムを開催  *「鉄と銅」を新J-STAGE3のシステムで運用開始  *世界最大70MN厚板冷間レヘラー導入(新日鐵住金鹿島)  *新日鐵と住金が合併し、新日鐵住	* 鉄鋼技術ジャーナルサイトの開設  * 「鉄鋼関連助成事業連絡会」設立 (日本鉄鋼連盟、鉄鋼環境基金、 鐵鋼スラグ協会、日本鋼構造協会、鉄鋼協会)  * 次世代コークス製造技術 (SCOPE21)の実機第2号ブラント 竣工(新日銀住金名古屋) * 「低炭素社会実行計画」策定(鉄 連)	*「第5版鉄鋼便覧」を発刊

### 3. 年 表(2015- )

	2015 平成27年			2018 平成30年	2019 平成31年、令和元年			2022 令和4年		2024 令和6年
1. 全般	* 創立100周年記念事業 創立100周年記念ま典 祝賞パーティー、他 * 創立100周年 日本鉄鋼協会史 の発行		* 準会員制度の変更(1月~)  * 事務局職員の新卒者採用再開 (1998年以来)			* 新型コロナウイルス(COVID-19)に より、協会活動の中止・延期、個人 会員数の大幅減少 * 環境・エネルギー・社会工学部会 の名称を「サステナブルシステム 部会」に変更(4月)		*「鉄鋼カーボンニュートラル検討会議」を新設  * 若手会員制度の新設(7月~)		i 182
2. 事業 講演会·研修会 育成事業	* 創立100周年記念国際会議「アジ アスチール2015」の開催(横浜)	* 第14回日本·中国鉄鋼学術会議 (仙台)	* 第3回EMECR(神戸) 第11回GALVATECH(東京) 第5回ISSS2017(京都) 第2回日独北欧合同シンポジウム (スウェーデン)	* EPM2018(淡路) ISHOC2018(松江) * 鉄鋼工学セミナーの開催場所を那 須に変更	* 第15回日本・中国鉄鋼学術会議 (重慶)	* コロナ禍により、春季講演大会中 止、秋季Web開催、育成事業のセ ミナー中止、技術講座延期 * 第1回CUUTE-1延期 第6回ISSS2020延期	* 第6回ISSS2021(オンライン) 第1回CUUTE-1(奈良)	* 第7回ICAS2022) (つくば、ハイブ リッド) ISHOC-2022(高松) 第1回SynOre2022(松江) * 会員向I大Wed講演会を開始 * 高校、高専生対象教育支援事業 開始	* 第3回日独北欧合同シンポジウム (Dusseldorf)	* 第16回日本·中国鉄鋼学術会議(宮崎)第7回ISS2024(京都)第2回CUUTE-2(奈良) * 高校、高専生対象動画教材作成
学術誌等の刊行	*「鉄鋼材料と合金元素改訂版」の * 発行 「遥かなる和鉄」(鉄の技術と歴史 研究フォーラム)の発行 *「ふえらむ」電子版提供開始 *「鉄鋼・材料系ジャーナルサイトの ブラットホーム機能強化による国 際情報発信力向上」事業の開始 (学振・科研費補助金、H27~31年	* 研究会成果報告書や西山記念技 術調座テキスト等の協会刊行物の 電子化実施 * ふぇらむ冊子体の配付中止と希望 者への有償配布開始	*「ふぇらむ」全記事の電子版公開 完了	* ISIJ Internationalの国別年間論文 掲載数で中国が初首位 * ふえらむ冊子版希望者への無料 配布開始		* 英文誌創刊60年記念号発行  * 鉄と鋼の論文にGraphical Abstractを添付(2020年1号〜)  * 鉄と鋼、ISIJ Int.の掲載論文に Creative Commonsライセンス付与 (2020年10号〜)	* ISIJ Int.I⊂Directory of Open Access Journals(DOAJ)搭載	* 鉄と銅DOAJ登載(論文誌2誌 Open Access化完了) * 鉄と銅の原稿種類に「速報論文」 を新設	* 会報誌ふえらむ一般公開(23年1号 〜)[カラーページは発行即時,入 門講座は発行から2年後、他は1 年後] * 論文誌:全論文受理原稿の早期 公開開始(10月~) * ISIJ Intの原稿種類にも「連報論 文(Short Article)」を追加	* 論文誌の特集号別立て発行(24年 1号~) * 冊子版「鉄と鋼」通常号を2号合併 (特集号は単独号として発行) * ふぇらむ配布形態見直し(若手会 員は原則電子版)
研究調査、助成		* 生産技術部門に「建設用鋼材利用 検討WG」を設置	* 産発プロジェクト展開鉄鋼研究の 名称を「鉄鋼協会研究プロジェク ト」に変更	* 生産技術部門に「地球温暖化対策 計画の実現に向けた鉄鋼技術検 討会議(略称CGS)」を設置				* 「鉄鋼カーボンニュートラル研究助成」を開始		
表彰						* 論文賞に「卓越論文賞」を新設		*「ふぇらむ貢献賞」を新設		* 鉄と鋼創刊110周年記念にて「論 文奨励賞」新設
その他	*「創立100周年 記念式典・祝賀 パーティー当日開催記録」の発行	* 技術部会部会大会資料の電子 化、同資料リスト閲覧検索システ								
3. 鉄鋼産業		* 新日鐵住金君津3高炉休止 (国内稼働高炉26基)	* 神鋼神戸3高炉休止 (国内稼働高炉25基) * 神鋼神戸製鋼工場休止、加古川 に上工程集約	* 国別粗鋼生産量で日本がインドに 抜かれ第3位 * 「日本鉄鋼連盟長期温暖化対策ビ ジョンーゼロカーボンスチールへ の挑戦 - Jを発表 * COURSE50フェーズ2開始	「日新製鋼」が「日鉄日新製鋼」に 商号変更	* 日本製鉄(株)が日鉄日新製鋼 (株)を吸収合併(4月) * 日本製鉄が製鉄所の統合・再編 成(国内製鉄所体制) * 日本製鉄小倉2高炉休止 (国内稼働高炉24基)	* 高炉3社が2050年カーボンニュートラルに向けた長期ビジョンを公表  * 国プロ「製鉄プロセスでの水素活用プロシェクト」(NEDO) 開始  * 日本製鉄(株)瀬戸内製鉄所呉地 区第1、第2高炉、関西製鉄所和歌山地区第1高炉休止 (国内稼働高炉21基)	* 日本製鉄(株)が瀬戸内製鉄所広 畑地区で新設電炉による商業運 転開始(10月)	* 日本製鉄(株)が瀬戸内製鉄所呉 地区閉鎖(9月) * JFEスチール(株)が東日本製鉄 所京浜地区の高炉1基を含む上エ 程休止(9月) (国内稼働高炉20基) * 日本製鉄(株)が米国USスチール 買収免表	
4. 時代背景	* 北陸新幹線開業 * 15年ぶりに日経株価2万円台回復	* 熊本地震 * 北海道新幹線開業	* 品質管理問題(神鋼、三菱マテリ アル子会社)	* 平成30年7月豪雨による瀬戸内海 沿岸地区の製鉄所被害 * 北海道胆振東部地震		<ul><li>* 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)パンデミック</li><li>* 英国EU離脱</li></ul>	* 東京五輪・パラリンピック開催(無 観客)	* ロシアのウクライナ侵攻  * 安倍元首相が銃撃され死亡	<ul><li>* イスラエル・ハマス軍事衝突</li><li>* 新型コロナ「5類」移行</li></ul>	<ul><li>* 能登半島地震</li><li>* 国内自動車5社認証不正</li><li>* パリ五輪・パラリンピック</li></ul>
	* 川内原発再稼働 2025			2028	* W杯ラグビー日本開催、日本代表 ベスト8 2029	2030		* 円安1ドル150円突破 2032	* 生成AI脚光 2033	* JAXA、小型無人探査機·SLIM月 面着陸成功 2034
1. 全般	令和7年 * 創立110周年 110周年記念誌発刊	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年	令和16年
2. 事業 講演会·研修会 育成事業	* ICASI2025(徳島)  * JABEE創立25周年記念大会 (建築会館ホール、ハイブリッド)									
学術誌等の刊行	* 鉄と鋼創刊110周年記念特集号 「若手研究者の鉄鋼研究への挑 戦」発刊									
研究調査、助成										
表彰	* 鉄と鋼創刊110周年記念「論文奨励賞】									
その他 3. 鉄鋼産業										
4. 時代背景										